日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話 （鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91・2・27 No. 3357

全組合員が堂々とスト貫徹

当局・革マルのスト破壊粉砕

銚子支部

震えるJR総連に本社・支社一五〇名が防衛

二月二五日、正午、銚子支部は、本部スト突入指令にもとづき、全員が、堂々とストライキに突入し、最後までやりきった。

われわれのダイ改合理化に対する怒りの激しさ、決意の固さに、恐れおののいた本社・支社当局は、実に一五〇名を動員し、退去命令を乱発し、スト破り集団＝JR総連のガードにきゅうきゅうとなっていた。

しかも、運転区の周辺では、時おりパトカーが弾圧の機会をうかがっている。

こうした異常なスト敵視・圧殺攻撃も、わが銚子支部の熱い団結の前にはなすすべもない。

二・二五ストは、突入と同時に勝負はついたのである。

乗客の安全よりも組織破壊に血道をあげ、団体交渉すらまともに行わず、ただただ上からの命令だけに従い、自己保身にのみ走る当局・管理者のぶざまな姿は、まさに当局・JR総連結託体制の終末を如実に物語っており、全組合員は、この〝敵〟の姿の中にわれわれの正しさと勝利の展望をしっかりと確信したのである。

正当なストライキに対し当局は、力で圧殺しようともくろむ。(2月25日)

人間らしく生きたい、だから闘うんだ！

正午！全組合員がストに突入！(正面入口)
新たな反合・運転保安闘争への決起誓う。

庁舎前でのスト突入集会のあと、近くの待機場に全員で集合し、討論会を実施した。

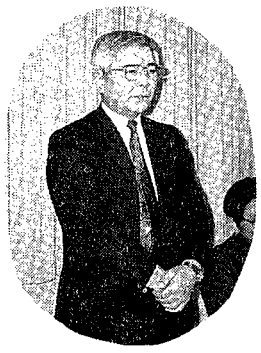
冒頭、錦織支部長は、「各支部も万全な体制でストに入っている。われわれのストライキに地区労センターをはじめ、地区で共に闘っている多くの人たちが激励や差入れに駆けつけてくれている。乗客の安全とわれわれ労働者の権利・生活をかけて、今次ストを突破口に、さらに前進しよう。闘いを通し、団結をよりうち固めよう」と訴えられた。

討論の中では、多くから当局の姿勢に対する怒りの声が発せられた。なかには「人間らしく生きたい、そのためにも闘うべきときは闘わなければだめだ」「安全は闘いとるものだ」等々と、みんなが「そうだ」とうなずくような発言も多く、闘いの中での有意気な話し合いとなった。

集会では、配転攻撃にひるまず不屈に闘いつづけている仲間から「今回一緒にストに入れてほしかった」「駅でもう古株になってきている。これ以上がまんできない」「駅から駅へのたらいまわしも画策されている。そんなことは許さない」などと激しい発言が続き、全組合員も仲間の怒りを共有し、闘っていくことを誓いあった。

2/15 中江選

労組選対が発足！



鈴木宏氏

二月十五日、船橋市において「中江昌夫労組選対結成総会」が開催され、四月二十一日（日）の投票日での圧倒的勝利を目指して全力で闘い抜く事が決定された。

労組選対委員長には、全日通千葉支部委員長の鈴木宏氏が選出され闘いの陣型が築かれた。

鈴木氏の「気をゆるめず、皆で努力すれば必ず勝てる。私も全力で頑張ります。」という決意に応え、全組合員は総決起しよう。